



「我が衷うちに能力ちからをもて働はたらき給たまふものの活動はたらにしたがひ、  
力ちからを盡つくして勞ろうするなり」  
（コロサイ人への手紙一章一九節 文訳）

故 青野雪江先生  
告別式次第

一九八八年三月五日（土）午後二時  
今治社会福祉センター

● 青野先生の書

心なき者の篤き禱望は  
力あるものなり

表紙

● 青野先生の作った「福音かぞえ歌」

- 一、一つとや一人もし新たに生れずば  
神の国を見る事出きません
- 二、二つとやふた、びキリスト来る時  
栄の体にかわります
- 三、三つとや御言心にたくわえて  
みたされつづけて進みましよう
- 四、四つとや世人を罪より救ふ為  
馬小屋さしてクリスマス
- 五、五つとや五つのパンと魚二つ  
五千人をまかなふ主の力
- 六、六つとや昔も今も変りなき  
エホバの御神は生ける神
- 七、七つとや七日に一日の聖日に  
みんなで礼拝守りましよう
- 八、八つとや破れた衣にあかだらけ  
主の血で洗われ着替した
- 九、九つとや心をつくして主の愛に  
おむくいせずにはおられません
- 十、十とや尊い生命をなげだして  
十字架にかゝりてがいせんす

# 故 青野雪江先生略歴

一八九四年（明治二七年）

十月二日 愛媛県今治市風早町で、米穀商の父直市と母クニの二女として誕生。

一九〇五年（明治三八年）

今治第一小学校高等科に学ぶ。

一九二三年（大正一二年）

神戸市の寺崎子供洋服店に勤務中、寺崎さんにおすすめられて請負師の石井氏と結婚。まもなく二人共結核に倒れる。

一九二八年（昭和三年）

夫に先立たれて悲嘆にくれていた時、寺崎さんに導かれてキリスト教に入信。奇蹟的に病気が癒され、今治に帰って洋服店を営む。

一九三〇年（昭和五年）

神の召命を受けて献身し、翌年、東京聖書学院の聴講生として数ヶ月学び、その後、岡崎で聖書研究に没頭。

一九三一年（昭和六年）

菊間教会牧師として任命を受ける。

一九三五年（昭和十年）

岡崎教会に転任、一年半後に病気が再発す。

一九三七年（昭和一二一年）

五月、今治に帰り静養中、みことばに励まされて再び伝道を始めたところ、祝福を受け、病いが癒される。

一九四二年（昭和一七年）

太平洋戦争のため弾圧を受け、伝道中止となる。

一九四九年（昭和二四年）

再度、今治に伝道を開始、今治を拠点として菊間、浅海、北条、大井、宮窪、壬生川と開拓伝道に成功し、巡回する。

一九五三年（昭和二八年）

今治教会々堂を建築。

一九五五年（昭和三〇年）

北条教会々堂を建築。

一九六〇年（昭和三五五年）

菊間教会々堂を建築。

一九六四年（昭和三九年）

七〇才記念として、壬生川教会々堂を建築。

一九六八年（昭和四三年）

一八年間、主牧を続けて来た今治教会を去り、壬生川教会に転任する。

一九七三年（昭和四八年）

壬生川教会名与牧師となり、菊間の渡部カズエ姉宅に転居。

十一月、伝記「主の愛に迫られて」を記念出版。

一九八〇年（昭和五五年）

西条の開拓伝道のため、西条に移る。

一九八一年（昭和五六年）

西条市民会館大ホールで「米寿宣教大会」を開催。

一九八三年（昭和五八年）

三月二八日夜、脳血栓で倒れ、約半年の入院生活の後、菊間の渡部カズエ姉宅に帰って静養。

一九八八年（昭和六三年）

二月一六日 午前九時四〇分、急に容態が変わり、同五〇分、安らかに息を引きとる。病名は「急性心不全」。

その五十数年にわたる伝道生涯で、信仰に導かれた人々数え難く、その中から伝道者十数名が生み出された。

七四才

四一才

七四才

三七才

七〇才

三六才

六一才

五九才

九三才

三四才

五五才

八九才

二九才

四八才

八七才

# 式次第

|     |              |       |
|-----|--------------|-------|
| 司会者 | 松山桑原教会牧師     | 安井満   |
| 司式者 | 日本ホーリネス教団委員長 | 尾花晃   |
| 奏樂者 | 松山教会員        | 高松美千子 |

一、前奏

一、賛美 (聖歌六三八番 やがて天にて)

一、聖書朗読 (詩篇二三篇)

伊予大島教会牧師

一 永田朝美

一、祈禱

壬生川教会員

武田輝子

一、賛美 (故人受唱歌 聖歌四二五番 罪おもにをのぞくは)

一 同

一、故人略歴

旭方教会牧師

阿部ユカエ

一、青野雪江先生のお言葉 (テープ)

一、式

辞「伝道者の鑑」エレミヤ書三〇章一八節―二二節

司式者

一、祈 禱 司 式 者

一、贊 美 (聖歌四五三番 罪ふかきこの身を) 一 同

一、弔 辞 松山教会牧師 片岡民子

北条教會員 松木晋吾

菊間教會員 小田淑子

一、独 唱 (聖歌三九九番 カルバリ山の十字架) 今治教會員 大西順子

一、弔 電 西条教会牧師 山崎雅実

一、頌 栄 (聖歌三八三番) 一 同

一、終 禱 司 式 者

一、挨 拶 親戚代表 青野昌男

葬儀委員長 四国教區長 松本三郎

一、献 花 (奏樂) 一 同

聖歌六三八

やがて天にて（みくににすまいを）

（ヨハ一四・二）

一 みくににすまいを そなえたまえる

主イエスの恵みを ほめよたたえよ

おりかえし

やがて天にて よろこび楽しまん

きみにまみえて ちか歌をうたわん

二 うき世のさすらい やがておえなば

かがやくとこよの みくにに移らん

三 もろともいそしみ はげみたたかえ

栄えの主イエスに まみゆる日まで

四 めあてにむかいて はせばをはしり

かがやくかむりを みとのにてうけん

聖歌四二五

つみおもにをのぞくは（黙二・一一）

一 つみおもにをのぞくは 血のちから主の血は

あくまのわざをこぼつ くしきちからなり

おりかえり

ちからある主イエスの血 うけようけよ

ちからある主イエスの血 うけよ今うけよ

二 にくのよくをのぞくは 血のちから主の血は

つみけがれをきよむる くしきちからなり

三 ゆきよりしろくするは 血のちから主の血は

つみのしみをぬきさる くしきちからなり

四 主にまことをつくすに 血のちから主の血は

日ごとわれをたすくる くしきちからなり

聖歌四五三

罪ふかきこの身を（詩二一六・一二）

一 つみふかきこの身を あいして

イエスは木にかられ いのちすてぬ

なんたるあいぞ！ あいぞ！ なみだに

ただむせびてイエスを みるほかなし

おりかえし

すくいはこの身に 成就しぬ

われいかで疑わん 主のみ業を

二 われほろびのなかに ありしを

主はさがしもとめぬ ながつつきひ

いまやわれのつみは あとなく

主の血にてあらわれ きよくなれり

三 いまころろにあるは やすきと

主にささぐる感謝の きよきしらべ

われいかでふたたび 快樂を

愛して主のみもとを さりゆくべき